令和 6 年度

自己点検･評価書
（学校評価報告書）

附属池田中学校

1 附属池田中学校の現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属池田中学校

(2) 所在地

大阪府池田市緑丘1－5－1

(3) 学級数・収容定員

12学級(1学年4学級) 収容定員432人(1学級36人)

(4) 幼児・児童・生徒数

432 人

(5) 教職員数

校長(併任) 1人, 副校長 1人, 主幹教諭 1人, 教諭 19 人(うち, 臨時的雇用12), 非常勤講師 6人, 事務職員 6人(事務補佐員4人, 臨時用務員2人)

2 附属池田中学校の特徴

国際バカロレア認定校として国際教育に, SPS 認定校として安全教育に重点を置いている。

3 附属池田中学校の役割

1. 教員養成大学である大阪教育大学の研究校 2. 教員養成大学である大阪教育大学の教育実習校 3. 学び続ける教師のための, 研修・研究に奉仕する学校です 4. 常に新しい教育理念を追究し, その実践を試みる, 研究開発学校 5.一般生徒, 国際枠生徒(帰国生徒, 在日外国籍生徒), 学校災害特別研究生徒からなる混合学級で授業を行う学校

4 附属池田中学校の学校教育目標

自主・自律の精神の育成 知識 と感情と意志をバランスよく調和させることによって, 自分自身で考え, 価値判断でき, 責任ある行動がとれる人間の育成をめざす。

5 附属池田中学校の学校教育計画

①「概念型探究学習」を基に, 学際的単元(IDU), コミュニティ・プロジェクト(CP), サービス・アズ・アクション(SA)の見直しを図る。また, 逆向き設計に基づき, 評価(形成的評価, 総括的評価)や振り返りを充実させ, 各教科で単元ごとに共通したルーブリックの作成を進める。また, 教員間で実践に係る相互評価を行いながら, ICT機器の活用(情報モラル等の推進を入れた)を含めた授業力の向上をめざす。 ②アドバンスト・セーフティ・プロモーション・スクール認定校として, 全教職員の共通理解の下, 共創の考えで組織的, 継続的に安全教育の実践的研究を行う。また, 池田地区のめざす児童・生徒像に基づいた安全意識・態度および実践的行動力を醸成する。 ③生徒の自主・自律を促進する生徒主体の活動を充実させる。また, 不登校傾向や課題のある生徒を支援する体制や環境を整備する。 ④ワーク・ライフ・バランスを推進するために, 教育活動の充実と働き方改革の整合性を図る。 ⑤いじめ・体罰・様々なハラスメント等のない人権を尊重する学校づくりを推進する。

6 附属池田中学校 令和6年度 重点目標(評価項目),具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	自主・自律の精神の育成「全人教育を鑑み,知識と感情と意志をバランスよく調和させることによって,自分自身で考え,価値判断でき,責任ある行動がとれる人間の育成をめざす」						
学校教育計画	1.「概念型探究学習」を基に,学際的単元(IDU),コミュニティ・プロジェクト(CP),サービス・アズ・アクション(SA)の見直しを図る。また,逆向き設計に基づき,評価(形成的評価,総括的評価)や振り返りを充実させ,各教科で単元ごとに共通したルーブリックの作成を進める。また,教員間で実践に係る相互評価を行いながら,ICT機器の活用(情報モラル等の推進を入れた)を含めた授業力の向上をめざす。						
本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)概念型探究学習の追究,評価活動の充実および各教科単元ごとのルーブリックの構築	・単元ごとのルーブリックの作成と改善 ・逆向き設計に基づく総括課題を含めた単元設計	パフォーマンス課題ごとにルーブリックを生徒に提示することができた。保護者アンケートによると85%で適切な評価基準を提示していると回答があった。教員アンケートでは,Unitplannerに基づく単元設計がなされている95.2%。とあることから達成されていると言える。ただ,生徒の授業満足度は85.2%と次年度に向けて改善が必要である。	ルーブリックを活用した課題提示はできているものの,3観点評価に向けて,つけたい力の整理とルーブリックの文言の整理が必要となってくる。さらに,保護者アンケートによると,「学校は子どもの主体性を尊重し,探究的な学習を行っている」の否定割合が6.5%となっている。概念型探究学習を見直していくことと,総合学習としてのアンケートを作成して分析する必要がある。	A	ルーブリックの提示について,85%の肯定的回答があり,評価できる。この結果は学校側の労力を想像することができる。また,少数意見についても着目していることがよいと思う。	A	ルーブリックの提示の在り方は継続の方向で考えながら,生徒がより主体的に取組めるしかけを追究することで生徒の授業満足度の向上を図る。
(2)ICTを活用した授業の推進および情報モラル教育の充実	・学習者用タブレットの有効活用および事例の共有 ・系統立てた情報モラル教育のの構築	・全ての教育活動において継続的に学習者用タブレットを使用しており,アンケート結果からも生徒・保護者・教職員とも非常に高い肯定的な回答を得られていることから,有効活用ができていると考える。 ・情報モラル教育については系統立てた効果的な指導を目指して,3年間を見通した年間指導計画の作成に取り組んだ。	生成AIの急速な普及に伴い,これまで以上に情報モラル教育の重要性が高まると考えられる。過去になかったツールが教育の場に浸透していることを踏まえ,状況の変化に対応した指導体制の確立が必要であると考える。	B	相対的評価としては素晴らしいと思います。公開授業からもそれらを感じ取ることができた。また,生成AIについては,全国的に課題も多いと思うが有効な使用を進めていただきたいと思う。	A	ICT,生成AIの有効活用を進めるにあたり,情報モラル教育等をより具体的に計画的に進める。

学校教育目標	自主・自律の精神の育成「全人教育を鑑み,知識と感情と意志をバランスよく調和させることによって,自分自身で考え,価値判断でき,責任ある行動がとれる人間の育成をめざす」						
学校教育計画	2.アドバンスト・セーフティ・プロモーション・スクール認定校として,全教職員の共通理解の下,共創の考えで組織的,継続的に安全教育の実践的研究を行う。また,池田地区のめざす児童・生徒像に基づいた安全意識・態度および実践的行動力を醸成する。						
本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)安全教育カリキュラムの確立および安全管理の充実	・生徒の主体性を重視したカリキュラムの推進 ・生徒,教職員の共創理念による日常の危機管理の充実	・生徒会(委員会)を中心とした安全に配慮した生徒主体の学校行事の企画運営を行なった。 ・安全点検では教師と生徒が(月2回)隔週で点検をおこない,校内の環境に目を向け安全に対する意識を高めている。 ・生徒対象救命救急講習では非常時に適切に対応できるよう生徒自身が考え,行動できる自信をもてるよう指導をおこなった。	・安全委員の意識は高く,コーナーガードの取り付けや安全点検を継続して意識的にやるようになっている。教員自身も安全に対する意識を高め,定期的な安全点検で生徒ともに身の回りの環境に目を向ける意識を高めていく。 ・今後は生徒全体にその意識が広がり高まるよう,更なる発信や取り組みの工夫が必要である。	A	安全教育から生徒の探究心が育まれ,持続可能な社会への貢献に寄与していくことを期待している。	A	安全教育を効果的に計画的に進めることで安全意識の継続した醸成を図る。また,池田キャンパスにおける学校安全の連携の具現化を図る。
(2)ヒヤリハットシステムの有効活用	・日常的なヒヤリハットシステムの活用と分析,共有	・週末に各クラスでヒヤリハットの実施を継続し,その都度,安全委員による分析と共有を行なっている。	・継続的にヒヤリハットの入力,分析,共有とともに,取り組みの目的や意義を共有することが必要。それも含めて安全の意識を持ち続け,高めていく工夫をおこなう。	A	ヒヤリハットシステムの経験は将来的には役立つ大切な経験だと思う。	A	ヒヤリハットで収集したデータをどのように活用するかを生徒・教職員が共通認識の下で進めていく。
(3)アドバンスト・セーフティ・プロモーション・スクールとしての取組の充実と国内外への発信	・校内の救命講習の実施(生徒・保護者) ・セミナー等での発表および視察の受け入れ ・外部への発信及びSPS認証のサポート	・12月に普及員の指導のもと,生徒対象救命講習を行なった。 ・研修(視察対応含む)やSPS認証のサポート(実地相談),セミナー等で安全の取り組みを発信する機会を多数(5回以上)いただいている。	・救命講習は受講生徒の事後アンケートからも技能の習得や行動できる勇気にもつながったと考える。継続してさらに生徒の資質能力が高まる取り組みにすることができるように実施方法等今後も検討を重ねていきたい。	A	継続的に取り組まれていることは,生徒にとって人間力の積み重ねにもなっているかと思う。	A	さらに生徒の資質能力が高まる取り組みにすることができるように,実施方法等を継続して検討を重ねていく。

学校教育目標	自主・自律の精神の育成「全人教育を鑑み,知識と感情と意志をバランスよく調和させることによって,自分自身で考え,価値判断でき,責任ある行動がとれる人間の育成をめざす」						
学校教育計画	3.生徒の自主・自律を促進する生徒主体の活動を充実させる。また,不登校傾向や課題のある生徒を支援する体制や環境を整備する。						
本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)生徒との信頼関係を基にした内面に迫る生徒指導,規範意識の向上と生活規律,学習規律の徹底,いじめや不登校への対応	・メンタルサポート会議による情報の共有と学年との連携 ・教育相談室等を活用した支援体制の充実 ・Q-U検査や生活アンケートの有効活用,支援が必要な生徒の把握および支援計画等に基づくサポート体制の充実	・学び支援会議の連携により,学年を中心としたチーム支援が実施されつつある。CS会議から,不登校課題を抱える生徒支援を検討し,別室支援等の体制化,及び巡回相談により生徒理解に努めた。 ・欠席者への「あったかご」の取り組みにより,安心した教室づくり支援を継続中。また長期休業時等に様々な媒体でSOSにつながる機会を提供し,安心と安全の予防に努めた。 ・いじめアンケート・QU検査は各学期で分析を行い,報告を行なっている。活用に関しては今後も検討が必要だと感じている。	・生徒支援の組織的な体制化に向けて,CS会議の意義や方法の評価と持続的なチーム支援に向けた活用 ・巡回相談による生徒理解を共有しながら,生徒が学びにより肯定感と自立に向かう支援の充実 ・小さな全体支援を充実させながら安心の学校風土づくりの継続 ・いじめアンケートやQUアンケートの分析結果を学校全体で共有し,対策を考える機会を設ける必要がある。	B	難しい課題に真摯に向き合っておらると思う。時代に合った手法も取り入れながら,生徒の意見を大切にしていることに対して評価できる。	A	いじめアンケートやQU検査を活用するとともに,ケース会議の協議を通して,生徒へのよりよいサポートを進めていく。
(2)生徒の主体性を重視した教育活動の展開,自治活動の充実	・生徒の主体性を重視した,CP,SAの充実 ・生徒の自主自律を促進する学校行事,部活動の展開 ・生徒会活動(委員会活動)の充実	・CPやSAにおいては生徒が選択しながら活動を行うことができている。 ・学校行事や部活動をはじめ諸活動において,生徒主体で進めることができるよう,生徒間の相互理解が進むような機会を増やしていく。そのことが学校全体の雰囲気の活性化につながると考える。 ・部活動は年間の大会数や休日練習を減らしていく方向で動いてきた。今後もあり方を検討していくことになるだろうが,生徒や保護者のニーズとのバランスが難しい。	・生徒会組織を活性化させ,学校の諸活動において生徒主体の自主性を育む取り組みを進めていく。 ・部活動のあり方については,今後も継続して検討していく必要がある。特に,教員の負担と生徒や保護者のニーズが合わない。お互いに負担のないような部活動のあり方を検討していく。	B	生徒の熱量が多い学校と思いますが,教員の方々との相互理解が少しあるように思います。	B	部活動においては,学校の方針と生徒・保護者のニーズの乖離があるので,方針や運用について明文化しながら理解を図っていく。

学校教育目標	自主・自律の精神の育成「全人教育を鑑み，知識と感情と意志をバランスよく調和させることによって，自分自身で考え，価値判断でき，責任ある行動がとれる人間の育成をめざす」						
学校教育計画	4. ワーク・ライフ・バランスを推進するために，教育活動の充実と働き方改革の整合性を図る。						
本年度の重点目標 （評価項目）	具体的な取組内容 （評価指標）	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)就業管理システムの活用による働き方の見直し	・就業管理システムの適正な活用 ・適切な振替や超過勤務時間の管理	就業管理システムについては，概ね適切に運用できている（入力漏れ等が減少している）。また，振替，超過勤務の基準および事前申請の原則を周知することにより適切な運用が図れている。	見通しを持った業務遂行の習慣化により，在校時間の縮減を図る。	B	就業管理システムの継続的な活用が，働き方改革に効果があることを期待しています。	B	就業管理システムの適切な運用をさらに推進し，自身の働き方の見直しの一助になるよう喚起する。
(2)行事，会議，研修等の整理および効率化を図る。	・見通しを持った計画，運営により会議，研修を設定時間内に終了	適切な会議設定を行っているが，時期によって，検討内容の量に偏りがあり，会議が時間内に終了しないこともあった。	事前に資料を提示することで，会議に費やす時間の縮減を図る。また，提案，周知，連絡等の区分を明確にし，会議の時間配分を設定する習慣を推進する。	B	教員の方々の努力も大切かと思いますが，教員の相互関係が生かされる体制も大切だと思う。	A	会議のボリュームが時期によって偏らないように，デジタル上で進める内容と対面が必要な内容の振り分けを図る。

学校教育目標	自主・自律の精神の育成「全人教育を鑑み，知識と感情と意志をバランスよく調和させることによって，自分自身で考え，価値判断でき，責任ある行動がとれる人間の育成をめざす」						
学校教育計画	5. いじめ・体罰・様々なハラスメント等のない人権を尊重する学校づくりを推進する。						
本年度の重点目標 （評価項目）	具体的な取組内容 （評価指標）	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)学級づくりや個々のコミュニケーションに基づく生徒理解の推進および課題の共通理解と早期のチーム対応	・メンタルサポート会議等から課題のある生徒の共通理解，チームとして役割分担や対応の充実	・学び支援会議やCS会議，SC連携等により，組織として生徒を見守る体制づくりとして，情報共有シートの提供により，担任・学年・授業者が生徒理解により，小さな配慮を行い，生徒支援を充実させた。	・チーム支援の途中経過等定期的に評価につながる仕組みづくり。 ・QUアンケート研修等，生徒理解や学級風土に関する共通理解を図りたい。	B	弱い立場の方への思いやりの教育が，社会的にも大きな影響があると思う。	A	生徒の様子や変容についての評価を継続的に行うことで，次のステージの目標につなげていく。
(2)生徒-教師間，教師間においても人権を配慮した安全・安心な環境づくりを推進する。	・アンケート等による実態の把握および研修等による意識の醸成や改善	・1学期と2学期にいじめアンケートやQU検査を実施。個々の生徒の課題を把握し，報告と分析をおこなっている。	・生徒に対しての具体的な支援方法を提示できるように，フィードバックする方法を検討したい。 ・検査の見方などの研修をするなど，活用の共通理解を図りたい。	B	生徒自身，一人ひとりの役割を考えるひとつのきっかけになることを期待している。	B	生徒への支援方法について，フィードバックする方法や検査の活用の共通理解を図る。

学校教育目標	自主・自律の精神の育成「全人教育を鑑み，知識と感情と意志をバランスよく調和させることによって，自分自身で考え，価値判断でき，責任ある行動がとれる人間の育成をめざす」						
学校教育計画	6. 大学・大学院・附属学校池田地区，他学校等の連携，保護者・地域との連携						
本年度の重点目標 （評価項目）	具体的な取組内容 （評価指標）	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)大学，池田地区および他校等との連携を図る。	・池田地区将来構想に基づく，大学教員および小学校，高校との連携・協議の充実 ・積極的な他校等からの視察の受入れ等ネットワークの拡充	・池田地区共同研究を通じて，小中高の連携，共同を一定図ることができた。また，研究会の指導助言は原則本学教員に依頼することで大学教員と連携を図ることができた。 ・12月までに12件の視察を受け入れ，学校間等のネットワークの充実が図れている。	池田地区内においては，連携・協働における課題を明確にし，連携・協働の目標を焦点化しながら進めていく必要がある。また，大学教員と年間を通じた連携が必要である。	B	公開授業の取組内容は，時代に即したツールを取りこまれていて方向性の明確さを感じる。	B	小中高の共同研究において，目標（ゴール）をどの校種の教員も理解できるように，構造化を図っていく。
(2)保護者・地域との連携	・登校立ち当番等のPTA活動の活性化および行事等を通した保護者との連携 ・警察，消防，市役所，地域自治会との連携	学校評価アンケート（保護者対象）においての肯定的回答は，PTAの活性化が89.7%，保護者との連携は94.4%であり，概ね達成できている。	PTA役員の負担過多にならないように，さらなる業務の精選が必要である。	A	PTA活動には普遍的な意義を感じています。PTA活動が活発化していることをありがたく感じている。	A	PTA活動（ボランティア活動を含む）の必要性の理解を促していく。

学校教育目標	自主・自律の精神の育成「全人教育を鑑み，知識と感情と意志をバランスよく調和させることによって，自分自身で考え，価値判断でき，責任ある行動がとれる人間の育成をめざす」						
学校教育計画	7. 教育実習の充実						
本年度の重点目標 （評価項目）	具体的な取組内容 （評価指標）	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)教育実習の充実	教科指導や学級指導において，指導教員を中心とした個々の教育実習生の課題を把握，各教科・実習部・管理職・大学と協力体制の確立	学校評価アンケート（教職員対象）において，実習生への指導に対しての肯定的回答が90.4%，であり，概ね充実した指導が行えている。また，実習生に係る課題は，早い時期に実習部，管理職，大学と連携・協力はとれている。	課題が顕著な実習生に対するサポート体制の確立	B	実習生と生徒との相互的なよい関係の体制づくりを継続されていると思う。	A	大学とも連携し，課題が顕著な実習生のサポート体制をさらに充実させる。